

「人権教育研究指定校事業」事業実施報告書

研究指定校名 : 米子市立成実小学校

1 学校の概要

学校名	米子市立成実小学校
学級数	8学級（うち特別支援学級：2学級）
児童生徒数	全児童数：160人（平成30年1月31日現在）
URL	http://www.torikyo.ed.jp/ynarumi-e/

2 調査研究のテーマ

(1) 調査研究のテーマ

【中学校区研究主題】

豊かな人間関係を築き、主体的に学び合い高め合う子どもの育成
～連携を重視した魅力ある学校づくりをめざして～

【本校研究主題】

自ら考え 学び合う 心豊かな なるみっ子の育成
～聴いて 考えて つなげる授業を通して～

(2) 調査研究のテーマを設定した背景

本校を含む尚徳中学校区は、平成24・25年度に、「魅力ある学校づくり調査研究事業」（国立教育政策研究所）、平成26・27年度には、「小中連携で取り組む授業改革ステップアップ事業」（鳥取県教育委員会）の指定を受け、すべての児童生徒を対象として、自尊感情を高めるための授業づくりや集団づくりを中心に、1中学校と3小学校（五千石・尚徳・成実）が連携しながら取り組んできた。研究指定は終わったが、この趣旨に基づき、平成28年度も引き続き仲間づくりを基盤とした研究を進め、平成29年度11月の米子市中学校区人権教育研究発表会の開催に向けて研究を推進してきた。

具体的には、これまで中学校区では、平成24年度から自尊感情アンケートを実施し、児童生徒の実態把握に努めてきた。そのアンケート結果から「授業に主体的に取り組んでいる」「計画を立てて、進んで家庭学習をする」という項目に課題があることが明らかになってきた。また、学習意欲や基礎学力の低さのため、学びから逃げる児童生徒もおり、自分に自信が持てず自尊感情の低下につながっていた。

そのため、中学校区としては、「豊かな人間関係を築き、主体的に学び合い高め合う子どもの育成～連携を重視した魅力ある校区づくりをめざして～」と研究主題を設定し、校区内の小中学校が共通認識のもと学力向上部（人権が尊重される学習活動づくり）、人権学習部（人権が尊重される人間関係づくり）、生徒指導部（人権が尊重される環境づくり）を柱とした体制を確認し取組を進めてきた。

それらを受け、本校では、学校教育目標を「かしこく やさしく たくましく」と掲げ、めざす子どもの姿を「進んで勉強する子」「自分と友だちを大切にする子」「最後までやり通す気力と体力を持つ子」、人権教育の研究テーマを「自ら考え 学び合う 心豊かな なるみっ子の育成～聴いて 考えて つなげる授業を通して～」と設定した。

本校児童は、Q-U調査や自尊感情アンケート等の児童アンケートの結果からも、素直で誰に対してもやさしく接することができ、何事にもまじめに取り組むことができるというよいところがあった。平成28年度2学期のアンケートから「みんなで何かするのは楽しい」は、指数（※）3.78と高い値になっていた。しかし、「授業に進んで取り

組んでいる」3.37、「計画を立て、進んで家庭学習をする」3.11と低い値になっており、進んで考え表現したり、行動したりすることに課題があった。そこで、学び合いのある授業（聴いて 考えて つなげる授業）づくりを推進し、「適切な自己表現等を可能とするコミュニケーション技能」、「人権の観点から自己自身の行為に責任を負う意志や態度」を育成することを通して自尊感情や自己肯定感を高めていこうと考えた。特に、先導教科である道徳では、児童が話し合いを通して培った道徳的判断力を生かし「よりよく生きるための基盤となる道徳性」をもちつつ、しっかりと考えた上で賢明な判断ができるようにする力をつけていくよう努めた。

なお、研究組織は、中学校区での共通の取組に鑑み、3部会（学力向上部、人権学習部、生徒指導部）を校内体制に位置づけた。

研究仮説

【仮説1】

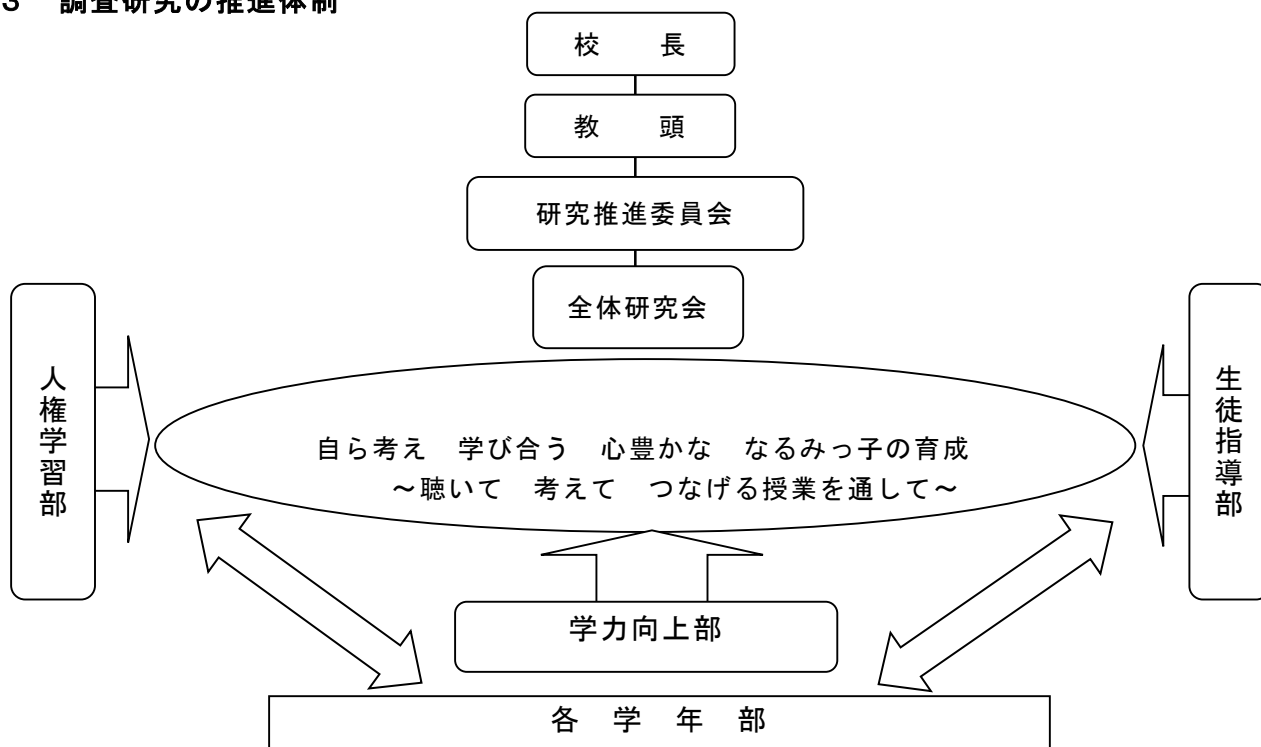
児童が安心して学べる環境や風土をつくり、認め合い高め合う仲間づくりを推進することで、児童はもっている力をのびのびと発揮し、自尊感情や自己肯定感を高めることができるであろう。

【仮説2】

学び合いのある授業（聴いて 考えて つなげる授業）を充実させることで、児童が自ら考え、判断し、表現する力を育て、学習課題の解決、身のまわりにある差別事象の解消、よりよい人間関係を築くための行動化・実践化へとつなげることができるであろう。

※…（「当てはまる」の人数×4＋「どちらかといえば、当てはまる」の人数×3＋「どちらかといえば、当てはまらない」の人数×2＋「当てはまらない」の人数×1）÷人数

3 調査研究の推進体制



《関係協力機関》 ○鳥取県教育委員会 ○米子市教育委員会
○米子市人権・同和教育推進協議会 学校教育部会
○尚徳中学校区人権・同和教育推進協議会

4 調査研究の内容等

(1) 調査研究の内容・実施日程

①意識調査・実態調査

ア 校区共通調査

- ・「自尊感情アンケート」を実施し、研究の成果と課題を分析した。

イ 本校調査

- ・児童アンケート年1回、保護者アンケート年1回を実施・分析した。
- ・Q-U調査の実施及び考察によりその結果を学級づくりの指導に生かした。

②授業研究

ア 道徳の授業研究会を全学級で実施し、教育委員会等の指導助言により指導力の向上を図った。

イ 米子市中学校校区人権教育研究発表会を実施した。

ウ 指導内容及び指導方法の研究と教材開発を行った。

③部会ごとの取組

ア 学力向上部

- ・自分や集団の考えを発展させる学び合いの授業（聴いて 考えて つなげる授業）の研究を進めた（図1）（写真1）。
- ・「学び合いのある授業づくりのための習得すべき技能」（学習規律）の定着を図った。
- ・上・下・特別支援部会での情報交換を行った。（学習規律等、成実の授業スタイル確立に向けた研究）

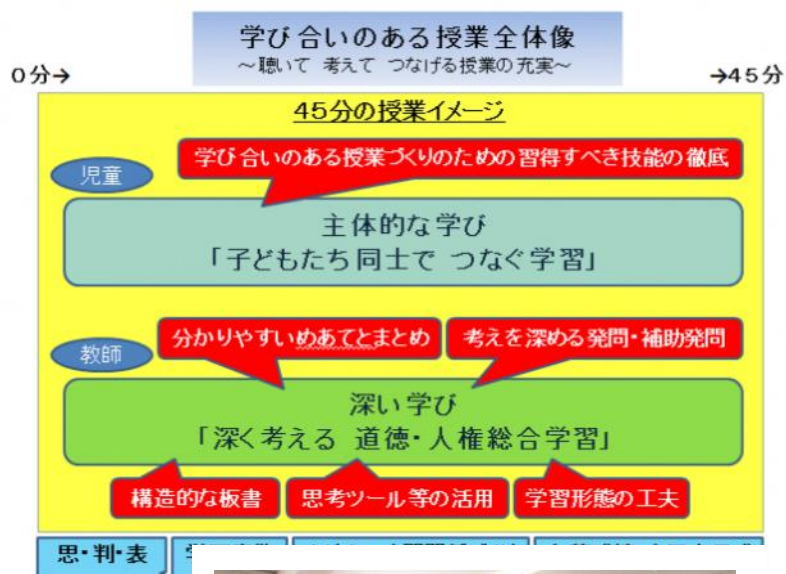
イ 人権学習部

- ・教科等のねらいに基づいた学習内容・学習展開の見直しを行った。
- ・「ほめ言葉シャワー」の取組を行った。
- ・「がんばるなるみっ子」ノートの取組を行った。（友だちや自分のがんばりを認め合う活動）
- ・縦割り活動を実施した。（なるみっ子タイム）
- ・友だちのよいところやがんばりを用紙に書き、玄関前に掲示した（写真2）。

ウ 生徒指導部

- ・あいさつ・返事の徹底を図った。
- ・「自問そうじ」の取組を行った（写真3）。
- ・「がんばるなるみっ子5か条」の意識づけを行った。
- ・「生活にこここキャンペーン」を実施し、家庭と連携し生活習慣の見直し・定着を図った。

（図1）



学習形態の工夫（写真1）



「すてき！なるみっ子」（写真2）

○「自問そうじ」とは、次の2つのこと目的として行うもの。

☆児童一人一人に宿る「自発性」を高め、「意志力・情操・創造性」を磨き、やがて一人前の立派な大人として生きる力を育む。

☆人の顔色をうかがって態度を変えたり、他からの指示命令や利害損失で動いたりするのではなく、何が正しいのかを自らに問いかけ、考え、決めて行動し、表裏なく正直に生きることの爽やかさを知る人間に育てる。



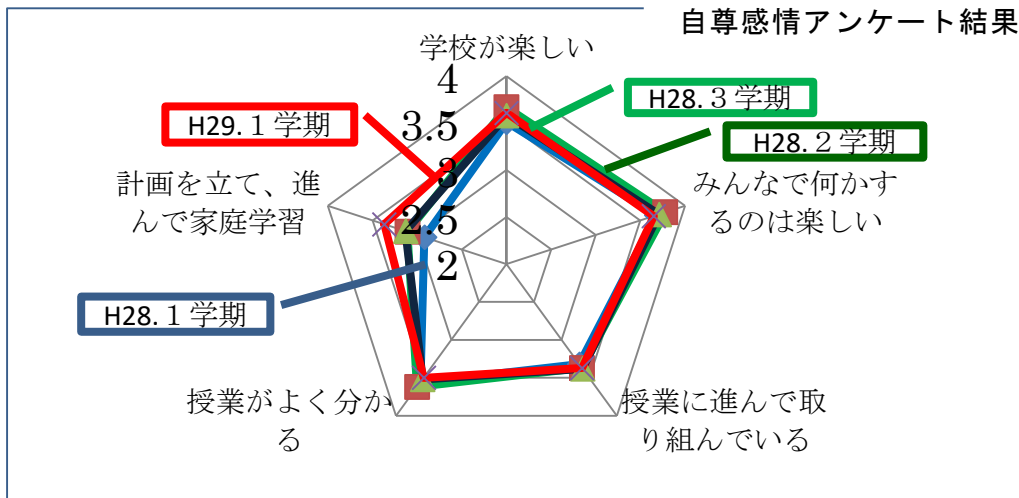
異学年での「自問そうじ」(写真3)

時 期	内 容	備 考
4月 4日	○第1回研究推進委員会	研究推進委員(6名)
4月 5日	○第1回校内研究会(研究の方向、内容の検討等)	全職員
4月18日	○第1回人権教育研究推進事業連絡協議会	1人
5月 1日	○第1回校内全体研修会 ・これまでの自尊感情アンケートの分析等	全職員
5月24日	○第1回校内授業研究会 ・4年生部会研究会 ・3年生全体研究会 【講師】前福生東小学校長 景山信子先生 義方小学校教頭 三木徹先生 県教育委員会 西垣栄太郎指導主事	全職員
6日 7日	○第2回校内全体研修、部会研修会 ・第1回Q-U調査実施 ・第1回自尊感情アンケート実施	全職員 全児童 全児童
6月14日	○第2回校内授業研究会 ・6年生部会研究会 ・5年生全体研究会 【講師】前福生東小学校長 景山信子様 県教育委員会 西垣卓宏指導主事	全職員
6月15~18日	○先進校視察(筑波大学附属小学校)	2人
6月23日	○第3回校内授業研究会 ・なのはな学級全体研究会 【講師】箕蚊屋小学校長 神庭誠先生 県教育委員会 西垣栄太郎指導主事	全職員
6月28日	○第4回校内授業研究会 ・1年生部会研究会 ・2年生部会研究会 【講師】前福生東小学校長 景山信子様 県教育委員会 西垣栄太郎指導主事	全職員
7月26日	○第3回校内全体研修、部会研修会 ・先進校視察報告、1学期の反省と今後の取組	全職員
7月27日	○中学校区教育推進委員会 ・自尊感情アンケートの分析等	全職員
8月 2日	○第4回校内全体研修会 ・第1回Q-U調査分析等	全職員
8月23日	○第5回校内全体研修会 ・米子市中学校区人権教育研究発表会配布資料作成	全職員

9月 6日	○第6回校内全体研修、部会研修会 ・研究発表会の授業について①	全職員
10月 11日	○第7回校内全体研修・部会研修会 ・第2回Q-U調査の実施・分析 ・第2回自尊感情アンケートの実施・分析 ・研究発表会の授業について②	全職員 全児童・全職員 全児童・全職員
10月 13日	○道徳授業研究会（米子市立河崎小学校）へ参加	全職員
11月 15日	○第8回校内全体研修、部会研修会 ・研究発表会の授業について③	全職員
11月 29日	米子市中学校区人権教育研究発表会 【指導助言】箕蚊屋小学校長 神庭誠先生 義方小学校教頭 三木徹先生	市内全校参加者・関係 機関・教育委員会等3 5名、全職員
12月 13日	○第9回校内全体研修、部会研修会 ・2学期の反省と今後の取組 ・学習状況アンケート、児童アンケートの実施 ・分析	全職員 全児童・全職員 全体会
1月 10日	○第10回校内全体研修、部会研修会 ・今年度の研究の振り返り	全職員
1月 18日	○米子市人権・同和教育研究集会実践発表	3人
2月 13日	○第2回人権教育研究推進事業連絡協議会	1人

(2) 調査研究の成果と課題

[成果]



本中学校区で平成24年度から実施している自尊感情アンケートの重点を「学校が楽しい」「みんなで何かをするのは楽しい」「授業に進んで取り組んでいる」「授業がよく分かる」「計画を立て、進んで家庭学習」の5項目に絞り、継続的に児童の変容を追っている。各項目について「あてはまる」4ポイント、「どちらかといえば当てはまる」3ポイント、「どちらかといえば当てはまらない」2ポイント、「当てはまらない」1ポイントとして、4点満点で計算している。平成28年度1学期は、「学校が楽しい」「みんなで何かするのは楽しい」「授業が良く分かる」は3.50ポイント以上で非常に高い値にあるが、「計画を立てて、進んで家庭学習」は3.00ポイント以下で、本校児童には、家庭学習が十分でなく、計画的に学習を進めることができないという課題が明らかになった。そこで、教職員全員で課題を共有し、「学力向上部」「人権学習部」「生徒指導部会」の取組をさらに充実させていった。その結果、平成28年度2学期、3学期、平成29年度1学期と徐々に数値が改善し、レーダーチャートの5角形が大きく均整のとれた形に変化し、自尊感情や自己肯定感が高まっていった。

ことが分かる。

【学力向上部会】

- 学び合いのある授業（聴いて 考えて つなげる授業）が定着してきた。
- 子どもたちの中にペアやグループでの対話が浸透してきており、様々な教科で意見を交流し合うことができるようになってきた。
- 道徳の時間の振り返りで、しっかりと自分を見つめ、本時の気づきや自分の思いを自信を持って発表できるようになってきた。
- 自尊感情アンケート結果から家庭学習に進んで取り組む児童が徐々に増えている。継続的に行っている月例テストの取組や家庭学習への教師からの励ましの声かけ等により成果が現れているものと考えられる。

【人権学習部】

- 地域の施設との交流を進めていくことにより、学校と地域の施設との双方向の交流になり、児童の探究的な活動につながった。
- 学習発表会を人権総合学習の地域・保護者への発信・啓発の機会として捉えることにより、相手意識を持った学習がより豊かなものになっている。
- 「がんばるなるみっ子ノート」や「すてきななるみっ木（こ）」の取組をすることにより、児童は自分の気づかなかったよさを認めてもらったり、ほめた児童もコメントをもらったりすることにより、児童の自尊感情が高まってきた。

【生徒指導部】

- 「自問そうじ」では、汚れているところを自分で見つけて、進んでそうじをしている様子が見られた。それを見てよいところを真似しようとする児童もいた。また、子どもたち同士で「がまん玉（しゃべらずに時間いっぱい取り組む）を貯めよう。それは見つけ玉（よりきれいにするように考えながら取り組む）だね。」など、「自問そうじ」を意識するような声かけが見られてきた。
- あいさつウィークを児童会中心に行ったことにより、学校全体で取り組める活動となった。教師主体ではなく、代表委員会で決めたことを自分たちでやろうという意欲が高まった。地域からも子どもたちの挨拶がよくなっていると評価をいただいた。
- 「生活にこにこキャンペーン」をすることにより、自分で目標を決めて、それに向けて努力をすることができた。自分に合った目標を設定し、実践することでよりよい生活習慣を作り出そうとする意欲が高まってきた。

〔課題〕

【学力向上部会】

- 月例テストの取組に一定の成果が現れているが、個別に支援を必要とする児童の指導に課題が見られた。
- どういう発問をすれば、子どもが目を輝かせ、ねらいに向かって学習に取り組むのかについて今後も研究していく必要がある。

【人権学習部会】

- 総合的な学習の時間における人権学習を進めていく中で、より主体的、探究的に展開できるような活動の流れを工夫する必要がある。
- 人権学習を通して学んだことを自己の生活に生かせるようにしていきたい。

【生徒指導部会】

- あいさつウィークや「生活にこにこキャンペーン」の意識が高まってきているが、この状態が持続するための手立てを工夫していく必要がある。
- 自問そうじについては、最初に共通理解して指導を行ったが、それ以降は各クラスでの取組となっている。ふり返りノートの交流や縦割りそうじなど、学年を越えて関わるような取組も工夫していきたい。
- 「がんばるなるみっ子5か条」の意識化されていない項目について今後どのように取り組んでいくか、校内組織での連携を図っていきたい。